

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	循環病態科学領域・循環病態内科学教育研究分野 川村 陽介
指導教授氏名	富田 泰史
論文審査担当者	主 査 花田裕之 副 査 萱場広之 副 査 今泉忠淳
<p>(論文題目) Clinical impact of complete atrioventricular block in patients with ST-segment elevation myocardial infarction (Primary PCI 時代における ST 上昇型心筋梗塞に合併する完全房室ブロックの頻度と予後の検討)</p> <p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究では、急性心筋梗塞 (AMI) に対して再灌流療法としての Primary PCI が一般的となった時代における、急性期完全房室ブロック (CAVB) が患者の長期予後への影響を前壁梗塞群と後壁梗塞群に分けて検討した。2007 年 1 月から 2016 年 12 月の間に、発症 24 時間以内に弘前大学医学部附属病院で Primary PCI を施行された ST 上昇型 AMI (STEMI) 連続 1,295 床例を対象とし、主要評価項目は全死亡、副次評価項目は心血管死・非致死的心筋梗塞・脳卒中・非代償性心不全による入院を複合した主要脳心血管イベント(MACCE)であった。全 1,295 例中 81 例 (6.3%) に CAVB を認めた。CAVB 合併率は、前壁 STEMI 群で非前壁 STEMI 群と比較して有意に低かった。CAVB 合併例では入院時の Killip 分類≥ 2 の割合、CPK および CPK-MB のピーク値も梗塞部位に関わらず有意に高値であった。前壁 STEMI 群における CAVB 合併例では、CAVB 非合併例と比較して LVEF が有意に低かった。前壁 STEMI 群の CAVB 合併例では CAVB 非合併例と比較して、全死亡 MACCE が有意に多かった。非前壁 STEMI 群の CAVB 合併例では CAVB 非合併例と比較して、全死亡率は高値であったが、MACCE の発生率には有意差はみられなかった。多変量 Cox 比例ハザード分析では、CAVB は前壁 STEMI では全死亡、MACCE とともに独立した予後規定因子であったが、非前壁 STEMI 群では全死亡、MACCE とともに独立した予後規定因子ではなかった。</p> <p>要約すると、STEMI 症例において CAVB 合併例では梗塞部位に関わらず、Killip 分類や CPK 値など入院時に重症である傾向が認められ、長期的予後は特に前壁 STEMI に CAVB を合併した場合全死亡 MACCE とともに顕著に低下が認められた。Primary PCI 時代の早期診断や再灌流療法に関する技術的進歩にもかかわらず、前壁 STEMI に合併する CAVB は顕著に生存曲線が低下することが明らかとなった。これらの所見は貴重な新知見であり、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Clinical Cardiology 2021;44:91-99.

※論文題目が英文の場合は () 内に和訳を付記する。

※論文審査の要旨は 900 字程度で本ページ 1 枚以内とする。

※論文審査の要旨の最後には、～「学位授与に値する。」と記入する。